掲示用

令和元年の交通事故統計分析結果

～車籍別・事業用トラックを第１当事者とする死亡事故～

公益社団法人 全日本トラック協会

対象は事業用貨物自動車（軽を除く）が第1当事者となる死亡事故。なお、「車両相互」での第2当事者となる「車両」には道路交通法上の「軽車両」である「自転車等」を含む。

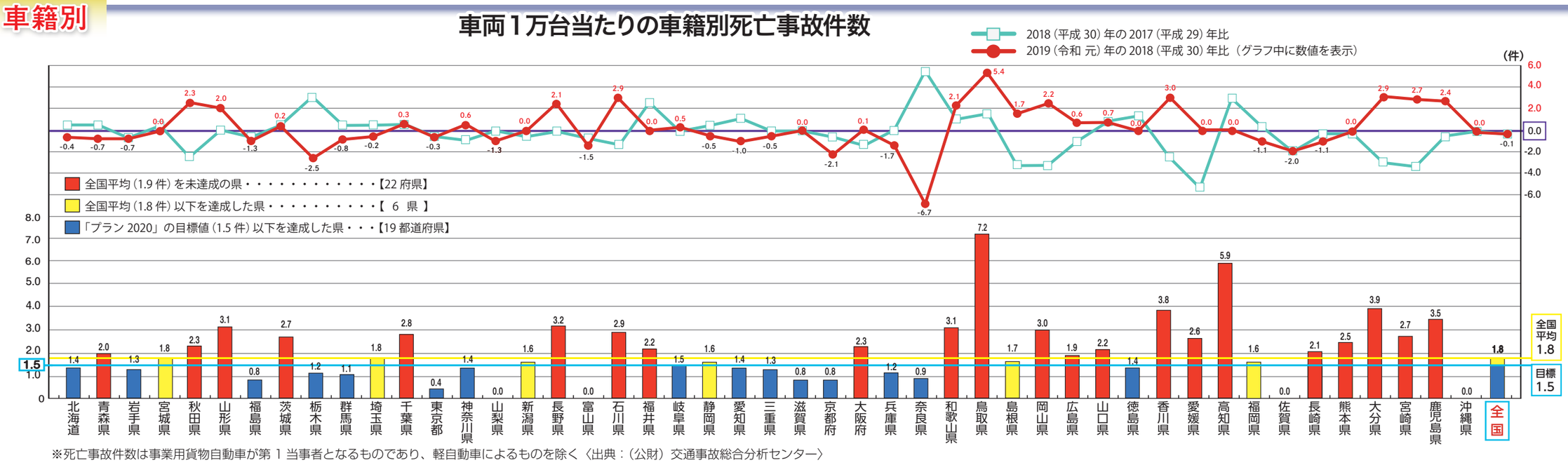
「トラック事業における総合安全プラン 2020」（プラン 2020）において、事業用トラックを第 1 当事者とする死亡事故件数の目標を、全国平均で車両 1 万台当たり「1.5 件」に設定しているが、令和元年は全国平均が「1.8 件」で、目標達成には至っていない。

都道府県別に見ると、「1.5 件」の目標達成は 19 都道府県で、うち山梨、富山、佐賀、沖縄はゼロを達成し、沖縄は 4 年連続。一方、目標未達成は 22 府県。

事業用トラックによる、飲酒運転件数は 96 件で対前年比 14 件の増加であり、プラン 2020 で目標としている「ゼロ」からほど遠い状況にある。トラック運送業界が一丸となって飲酒運転根絶に向けて取り組むことが最重要課題である。

車籍別

車両１万台当たりの車籍別死亡事故件数

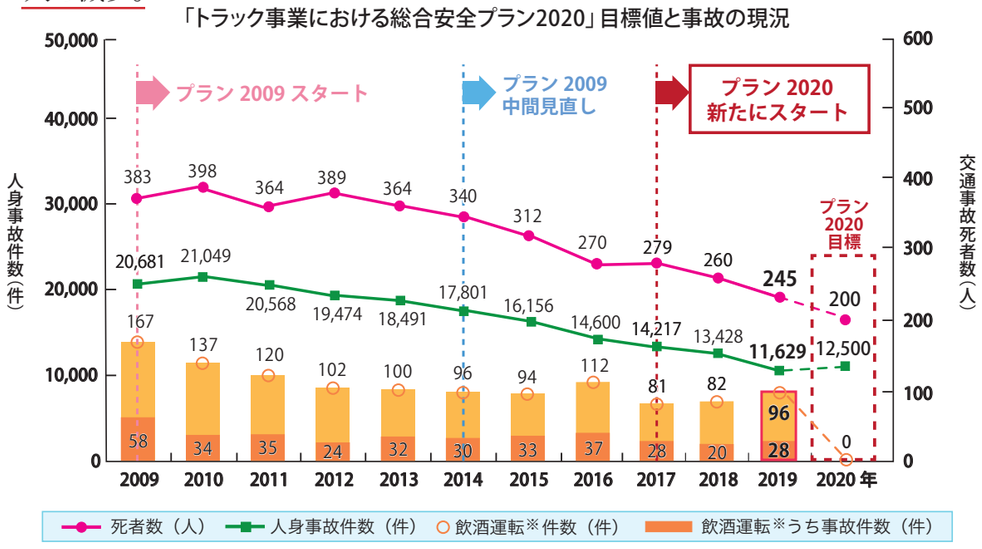


※死亡事故件数は事業用貨物自動車が第 1 当事者となるものであり、軽自動車によるものを除く〈出典：（公財）交通事故総合分析センター〉

※車両台数はトレーラ及び軽自動車を除く営業用貨物自動車の保有台数（2019 年 12 月末現在）〈出典：（一財）自動車検査登録情報協会〉

「トラック事業における総合安全プラン 2020」と目標値達成状況

人身事故件数が減少傾向にある中で、飲酒運転件数は目標としている「ゼロ」からほど遠い状況にあり、トラック運送業界の社会的信頼性を著しく失墜させる憂慮すべき状況となっている。なお、死者数（245 人）は対前年比 15 人の減少。



※「飲酒運転」は「道路交通法違反取締件数」の数値で、「酒酔い運転」および「酒気帯び運転」の合計値。
数値はいずれも事業用貨物自動車（軽自動車を除く）によるもの。

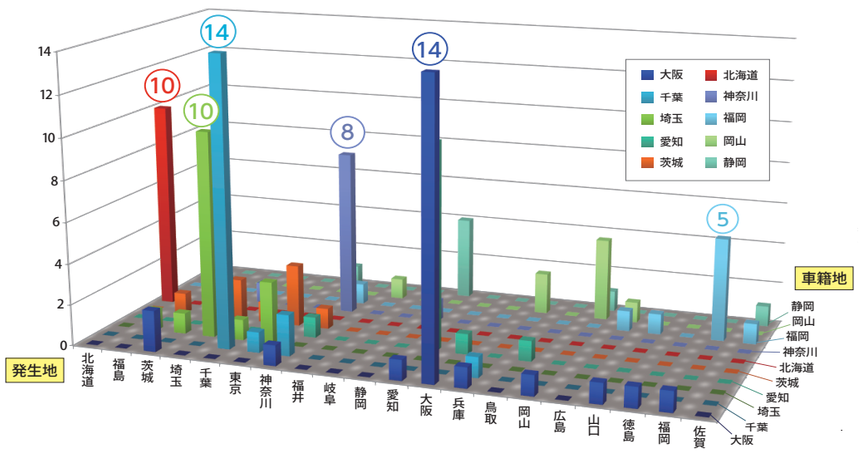
〈出典：警察庁「交通事故統計」および（公財）交通事故総合分析センター「交通統計」〉

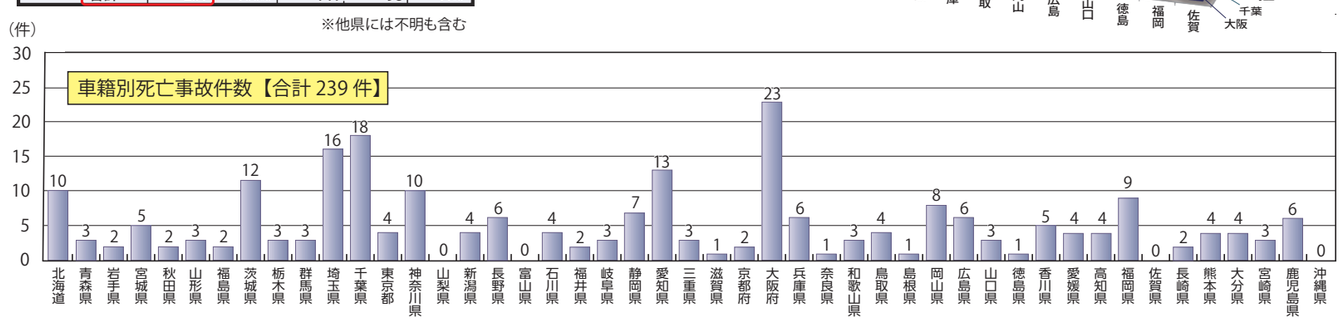
死亡事故データ（車籍別発生状況）

車籍地（県内）以外での死亡事故は 4 割強を占め、ワースト上位のうち「茨城」「長野」「広島」は他県発生率が高い。

ワースト順位	車籍地	件数	割合（%）	発生地内訳（件） 県内	他県※	他県発生率（%）
1	大阪	23	9.6	14	9	39.1
2	千葉	18	7.5	14	4	22.2
3	埼玉	16	6.7	10	6	37.5
4	愛知	13	5.4	10	3	23.1
5	茨城	12	5.0	4	8	66.7
6	北海道	10	4.2	10	0	0.0
6	神奈川	10	4.2	8	2	20.0
8	福岡	9	3.8	5	4	44.4
9	岡山	8	3.3	4	4	50.0
10	静岡	7	2.9	4	3	42.9
11	長野	6	2.5	2	4	66.7
11	兵庫	6	2.5	3	3	50.0
11	広島	6	2.5	2	4	66.7
11	鹿児島	6	2.5	5	1	16.7
15	宮城	5	2.1	2	3	60.0
15	香川	5	2.1	3	2	40.0
	その他	79	33.1	41	38	48.1
	合計	239	100.0	141	98	41.0

※他県には不明も含む

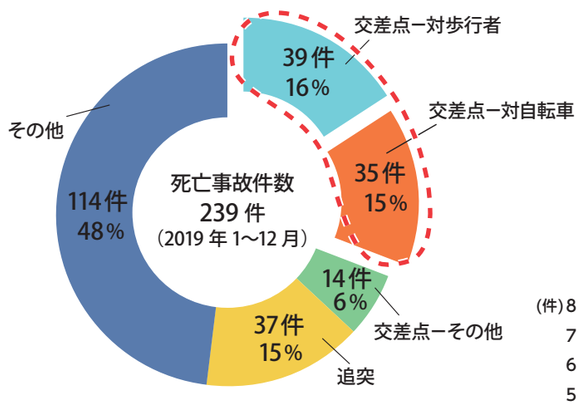




〈出典：（公財）交通事故総合分析センター〉

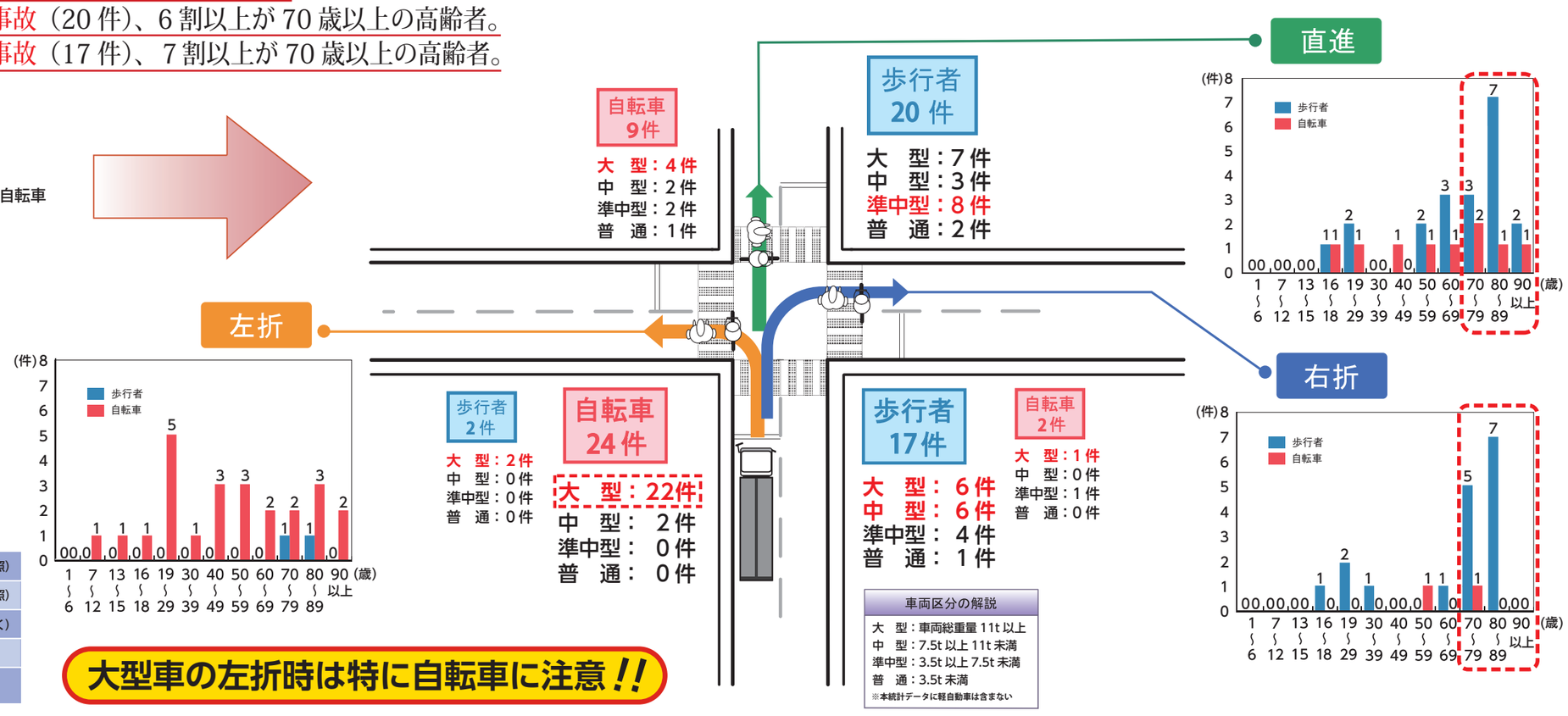
交差点における死亡事故（対歩行者・対自転車別）

- 交差点における対歩行者、対自転車の死亡事故（74 件）は、追突事故（37 件）の２倍。
- **左折**死亡事故は、８割強が大型車による対自転車事故（22 件）。
- **直進**死亡事故は、約７割が対歩行者事故（20 件）、6 割以上が 70 歳以上の高齢者。
- **右折**死亡事故は、約９割が対歩行者事故（17 件）、7 割以上が 70 歳以上の高齢者。



交差点ー歩行者	交差点での右左折及び直進時の対歩行者事故（右図参照）
交差点ー自転車	交差点での右左折及び直進時の対自転車事故（右図参照）
交差点ーその他	上記以外の交差点での対四輪車・二輪車事故（追突除く）
追突	対二輪車・自転車を含む追突事故
その他	上記以外の正面衝突時の車両相互（自転車含む）事故、車両単独事故、交差点以外での対人事故

直進時と右折時は特に高齢の歩行者に注意!!



大型車の左折時は特に自転車に注意!!

〈出典：（公財）交通事故総合分析センター〉